

平成 28 年度「第1回広島大学マスタース講演会」報告

平成 28 年度「第1回広島大学マスタース講演会」が下記の要領で開催された。

演題:「香りへの招待」

講師:平田敏文(広島大学マスタース会員)

日時:2016 年 6 月 12 日(日)13:30~15:00

場所:東広島市市民文化センター研修室1・2(サンスクエア2F)

入場:無料

主催:広島大学マスタース

共催:広大マスタース友の会

講演では、太古以来の「香りとの係わり合い」について、歴史的背景からアロマセラピーまで、「香りの文化」、「香りの化学」、「香りの生理学」の視点から、パワーポイントを用いて素人にも分かりやすく説明していただき、「香り」への学問的アプローチを身近に感じることができた。講演要旨は以下のとおり。(原野 昇)



【講演要旨】 生き物にとって、香りは“情報伝達”の手段として必須のものですが、人間はいつしかそれを“楽しむ”ものに変えてきた。「香りは人間にとって何か?」について、「香りの文化」、「香りの化学」、「香りの生理学」の項目にわけて解説した。

(A)香りの文化—香りの人間との係り合い

(1) 古代の香り—そのルーツを訪ねて

- (a) 古代エジプトで使われてきた香り: 「乳香」と「没薬」
 - (b) ギリシャ神話に出てくる香り: 「薄荷」と「バラ」
 - (c) キリスト生誕物語に出てくる3つの献上品(宝物): 「乳香」、「没薬」、「黄金」
- (2) 日本古代の香り
- (a) 万葉集や古今和歌集に詠われた香り—万葉集にはなぜ香りの歌が少ないのか?
 - (b) 歴史にみる貴重な香り: 「竜腦」と「蘭奢待」

(B) 香りの化学

(1) 植物や動物から採れる香り成分

- (a) 身の回りの香り植物—“香り”は認知症予防になる?
- (b) 花の香りの三大女神: 「ローズ」、「ジャスミン」および「ネロリ」
- (c) 動物からの香料: 「龍涎香」と「ジャコウ」—媚薬になる?

(2) 香りの成分(精油)の採取法

- (a) 水蒸気蒸留法
- (b) 溶剤抽出法
- (c) 吸収法

(3) 香りを決める化学物質

- (a) マツタケの香り;バニラの香り;ワサビの刺激臭
- (b) 香りの芸術-香水や食品フレーバーの開発

(C) 香りの生理学

- (1) 動物や植物にとって香りとは何か—キャベツとモンシロチョウの駆け引き
- (2) 香りのセンサー(嗅覚器官)の仕組み—人間の嗅覚機能は蛙なみ?
- (3) 香りの脳への伝達機構—人間は香りを総合的に記憶する。

余談を混ぜたせいで講演時間が足りなくなり、質問の時間が取れなくなってしまったが、講演後に「広大マスターズ友の会」との交流の場が設けられていたので、その際にいろいろな質問やご意見を伺うことができ有難かった。(平田敏文記)